

平成 29 年 5 月 16 日

各 位

会社名 シダックス株式会社  
代表者名 代表取締役会長兼社長 志 太 勤 一  
(JASDAQ コード番号 4837 )  
問合せ先 常務取締役 管理本部長 兼 IR 担当  
若 狭 正 幸  
(TEL. 03-5784-8909 )

営業外費用の計上、特別利益の計上（開示事項の経過含む）及び特別損失の計上並びに  
通期連結業績予想の修正及び通期個別業績値と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期において、営業外費用、特別利益及び特別損失を計上するとともに、平成 28 年 11 月 2 日に公表いたしました通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。また、個別業績において、前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

## 1. 営業外費用の計上について（連結）

平成 28 年 11 月 2 日付「営業外費用の計上及び平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」及び「平成 29 年 3 月期第 3 四半期決算短信」にて開示いたしましたとおり、平成 29 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間において、持分法による投資損失 2,892 百万円を営業外費用に計上しておりましたが、持分法適用関連会社における不採算店舗の撤退後の事業の再構築に伴い、当第 4 四半期連結会計期間における持分法による投資損失が 585 百万円となり、平成 29 年 3 月期の連結決算において合計 3,477 百万円の持分法による投資損失を営業外費用に計上いたします。

## 2. 特別利益の計上について

### (1) 役員退職慰労引当金の取崩し（開示事項の経過）（連結・個別）

平成 29 年 3 月 22 日付「役員退職慰労金制度の廃止および特別利益の発生に関するお知らせ」にて開示いたしましたとおり、同日開催の取締役会において、役員退職慰労金制度の廃止を決議したことにより、平成 29 年 3 月期の連結決算において、制度廃止時点（平成 29 年 3 月 31 日）の役員退職慰労引当金の戻入益 668 百万円を特別利益に計上いたします。

### (2) 関連会社における株式譲渡価額の返還債務の戻入による特別利益の計上（連結）

平成 26 年 5 月 10 日付にて、当社の連結子会社でありました、Restaurant Hospitality, LLC(米国・現 持分法適用関連会社)の株式持分の一部を譲渡いたしました。譲渡先との間で退職年金負債の額について国際仲裁裁判所を通じて調停が続いておりましたが、今般、仲裁裁判所の裁定が下り当社の意見が全面的に認められ、返還リスクが解消されたため、平成 29 年 3 月期の連結決算において返還債務の戻入益 509 百万円を特別利益に計上いたします。

### 3. 特別損失の計上について

#### (1) 減損損失の計上について(連結)

平成 29 年 3 月期の連結決算において、連結子会社が所有するレストランカラオケ事業及び一部不採算事業の用に供する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、747 百万円の減損損失を特別損失に計上いたします。

#### (2) 関係会社株式評価損の計上について(個別)

平成 29 年 3 月期の個別決算において、「金融商品に関する会計基準」に基づき、当社連結子会社であるシダックス・コミュニティー株式会社及びその他連結子会社 1 社の業績、財政の状況等を検討した結果、当社が保有する当該子会社株式について 608 百万円の関係会社株式評価損を特別損失に計上いたします。

なお、当該関係会社株式評価損につきましては、連結上は消去されるため、連結業績に与える影響はございません。

### 4. 通期連結累計期間連結業績予想値の修正

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	151,000	1,600	△1,200	△3,300	△84.66
今回修正予想 (B)	148,433	1,269	△2,966	△3,220	△82.61
増減額 (B-A)	△2,566	△330	△1,766	79	
増減率 (%)	△1.7	△20.7	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	159,707	△771	△1,089	△7,120	△182.66

### 5. 通期個別業績値と前期実績値との差異

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前期実績 (A)	9,797	△864	△1,331	△5,150	△132.13
実績値 (B)	9,526	1,155	411	△340	△8.74
増減額 (B-A)	△270	2,019	1,742	4,809	
増減率 (%)	△2.8	—	—	—	

### 6. 修正及び差異の理由

#### (1) 連結業績

売上高につきましては、長引く景況感の悪化に伴い個人消費が力強さを欠く状況が続き、同業他社との低価格競争が激化するなか、収益構造の抜本的改善を図るべく、特にコントラクトフードサービス事業、メディカルフードサービス事業及びレストランカラオケ事業において、業績の回復が見込めない不採算店舗の撤退を積極的に推進した結果、売上高が予想を下回ったものの、トータルアウトソーシング事業において施設管理、学童保育、学校給食等の受託が好調だったことにより、全体的には概ね通期業績予想比通りの推移となりました。

営業利益につきましては、上記不採算店舗の早期撤退と早期黒字化に向けたコスト管理の徹底に注力した結果、セグメント別では特にレストランカラオケ事業において、前年同期比で約 15 億円の営業利益改善を果たし、前期の営業赤字から、連結決算での営業黒字転換を実現致しました。しかしながら、原材料

価格の高騰や慢性的な人手不足等による人件費、物流コスト高騰の影響などによりグループ全体のコストが増加し、全体としては通期業績予想値を若干下回る見込みとなりました。

経常利益につきましては、上記営業利益予想に加え、「1. 営業外費用の計上について(連結)」に記載しております持分法による投資損失の計上等により、通期業績予想値を大きく下回る見込みとなりました。

主にレストランカラオケ事業の不採算店舗の前倒し処理に伴う損失ではありますが、これによりレストランカラオケ事業の抜本的なリストラクチャリングを完了致しました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記経常利益にて予想を下回ることとなりましたが、「2. 特別利益の計上について(1) 役員退職慰労引当金の取崩し(開示事項の経過)(連結・個別)」に記載しております、役員退職慰労引当金の戻入益 668 百万円及び、同「(2) 関連会社における株式譲渡価額の返還債務の戻入による特別利益の計上(連結)」に記載しております特別利益 509 百万円の計上等により、全体としては概ね通期業績予想値通りの見込みとなりました。

なお、翌事業年度以降につきましては、引続き当社グループのスケールメリットを最大限活用し、原材料・物流コストの高騰抑制と労務費管理の徹底によるローコストオペレーション体制をより一層推進するとともに、レストランカラオケ事業の早期黒字化、コントラクトフードサービス事業、メディカルフードサービス事業による「食」のフィールド拡大とトータルアウトソーシング事業の推進により業務の受託拡大と営業体制の強化を図り、収益性の改善に努めてまいります。

## (2)個別業績

売上高につきましては、主に当社連結子会社からの不動産賃貸収入が減少したことにより前期実績を下回る見込みとなりましたが概ね順調に推移いたしました。

営業利益・経常利益につきましては、グループ再編の結果、主に連結子会社に対する当社債権等について、貸倒引当金戻入額の計上があったことにより、前期実績を上回る見込みとなりました。

当期純利益につきましては、経常利益の増加や、「3. 特別損失の計上について(2) 関係会社株式評価損の計上について(個別)」に記載しております、関係会社株式評価損の計上があったものの、前期において関係会社株式評価損 3,969 百万円の計上があったこと等により、前期実績を上回る見込みとなりました。

以 上